

単元名「あまりのあるわり算」 (第3学年 A 数と計算)

■ 本事例のポイント ※特別支援学級（自閉症・情緒障害特別支援学級、在籍2名）での授業

1. 具体物やパソコン等で操作活動ができる環境を整えることで、視覚的に問題を捉えられるようにした。
2. 問題場面や日常生活の場面を想起させることで、学習調整する姿や、計算を生活に生かそうとする姿の実現を目指した。

■ 単元の目標

割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養う。

■ 単元の指導計画（8時間）

第1小単元

「あまりのあるわり算」

- ・割り切れない場合の計算の仕方を理解する。
- ・余りと除数の関係を理解する。
- ・割り切れない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解する。
- ・割り切れない場合を含む、除法の計算ができる。

第2小単元

「あまりを考える問題」

- ・余りの捉え方について理解を深める。

第3小単元

「学習を振り返り、まとめる」

■ 本時の概要

【問題Ⅰ】

ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。

しき $23 \div 4 = 5 \text{ あまり } 3$
 こたえ $5? 3? \quad 5 \text{ は } 3$
 ㊤ あまりはどうしたらよいかな考えよう。

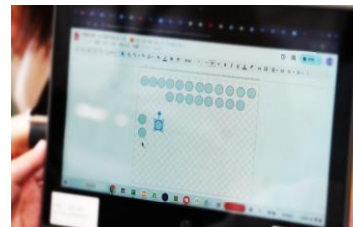
答えは「5箱かな? 3箱かな?」という子供の疑問からめあてを設定しています。

【問題Ⅱ】

タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。

商がそのまま答えになる場合の除法も本時で扱うことで、余りのある除法を統合的に捉えられるようにしています。

【学習活動の様子】



図形描画機能やワークシート、ブロックを用いて自力解決する。



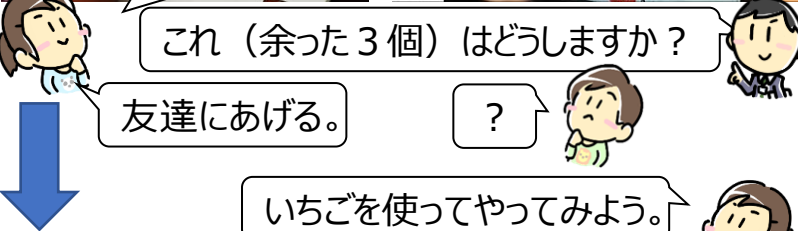
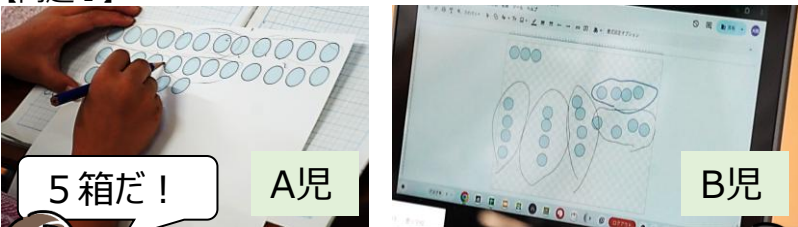
具体物（いちごの磁石、折り紙、ブロック）を操作して二人で検討する。

※【問題Ⅰ】の自力解決、検討を行った後に、【問題Ⅱ】に取り組む。

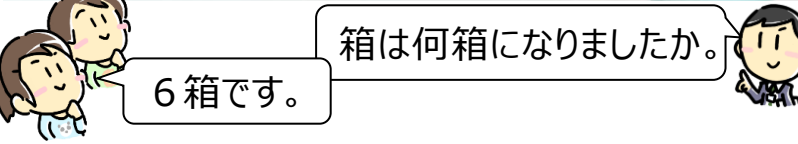
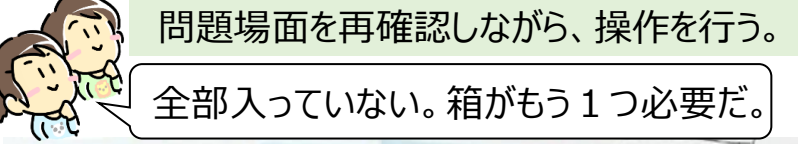
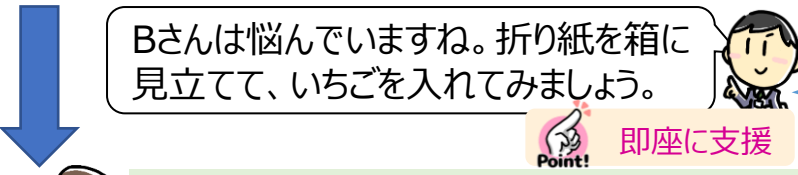
本時の内容を振り返りまとめた後、適用問題に取り組み、評価に生かします。

■ 学習調整をしている子供の姿

【問題 I】



具体物を使って操作をするが、3個は「余り」としたまま、問題場面の答えに結び付けられていない。



■ 授業づくりの工夫

- パソコンの画面をプリントアウトしたり、ブロック操作を写真で撮ったりして、操作の様子が視覚的に残るようにした。
- 前に出て具体物を操作したり、ホワイトボードに書いたりすることで主体的に学習に参加できるようにした。
- 自力解決、全体共有と時間を区切らず、子供の進捗状況に応じて学習形態を変えた。



■ 指導と評価の工夫

- ① **子供の問題解決の様子に応じて、具体物を提示**
 - * 進捗状況に応じた支援ができる。
 - * 段階的に問題場面の具体に近付けていくことで、計算結果と問題場面を結び付けられるようにする。
- ② **子供のつまづきを見取り、それに応じて支援**
 - * 問うことで、子供の考えを明確にしたり、気づきや学習調整を促したりすることができる。

■ 成果（○）と課題（▲）

- 具体物を操作することで、子供は解決結果を日常の事象に意味付けることができた。そのため、子供自身が結果を見直し、余りの処理の仕方を理解することができた。
- ▲場面によって処理の仕方が異なることをまとめる際に、子供の言葉を引き出したが、語彙が少なく表現が難しかった。必要に応じて教師から教えることで、定着につながると考えられる。